７雑草（北川冬彦）

　　　雑草 北川冬彦

１　雑草が

２　あたり構わず

３ ①延び放題に延びている。

４　この景色は胸のすく思いだ

５　人に踏まれたりしていたが

６　いつの間にか

７　人の膝を没するほどに伸びている

８　ところによっては

９　人の姿さえ見失うほど

10　深いところがある。

11　この景色は胸のすく思いだ

12　伸びれるときは

13　どしどし延びがるがいい。

14　そしてえはしなくとも

15　豊かな花をどっさりと②咲かせることだ。

　この詩には、作者の思想の根底によこたわっている、生命力に対する強い肯定的な精神が、その信念をまもるための抵抗や反逆の論理にまぎれずに、そのまま率直に表現されている点に注意がひかれるのである。

　この詩では、その肯定の精神が、「自我」の率直な主張の形で述べられていると見てよい。

　雑草が、人間の便宜的な理由のために、③どのように受けとられ、どのようにしいたげられようと、生をうけて生きていく雑草の真実には何のかかわりもないことなのである。

　雑草には伸びはびこる権利があり、その④特有な花を、どっさり咲かせる権利もあるのである。

　この詩の雑草は、こうした彼の人生観の表象として取りあつかわれているわけだが、ことによると作者は、この論理をもっと身近で、具体的な事柄にひきよせて、この作品の中で物語ろうとしているのかもしれない。

　つまり、この雑草によって語られている、その不滅の生命力は、あるいは

⑤ 「詩」について言われているのかもしれないのである。

（の解説文による）

問１　上の詩に歌われた季節を漢字一字で答えよ。

〔　　　 〕

問２　――線部①が具体的に描写されている部分を二箇所、それぞれ指定された行数を行番号で答えよ。

▽＝（　　　）行目　　▽＝（　　　）（　　　）行目

問３　――線部②の意味として、最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　咲かせてほしいものだ。

イ　咲かせるかもしれない。

ウ　咲かせることだろう。

問４　作者の感慨が繰り返しうたわれている部分を、行番号で答えよ。

（　　　）行目・（　　　）行目

問５　上の詩は三連構成と思われるが、第二・第三連はそれぞれどこから始まるか。行番号で答えよ。

▽第二連＝（　　　）　　▽第三連＝（　　　）

問６　上の詩で作者はどんなことに感動しているか。最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

ア　雑草のさかんな生長に見る、時の流れの速さ。

イ　雑草のさかんな生長ぶりに感じ取る、自然の旺盛な生命力。

ウ　雑草が大自然と調和している様子。

問７　――線部③について、「しいたげられ」る雑草がうたわれている一行を行番号で答えよ。

（　　　）行目

問８　――線部④が詩中にうたわれている部分を一三字で抜き出して答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

問９　――線部⑤について、もしそうだとすれば、作者はどんな思いを抱いていることになるか。簡潔に答えよ。

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〕

【解答】

問１　夏

問２　▽＝７

　　　▽＝９・10

問３　ア

問４　4・11

問５　▽第二連＝５

　　　▽第三連＝12

問６　イ

問７　５

問８　見栄えはしなくとも豊かな花

問９（例）独自の詩をどしどし書き続けていきたい。

ポイント

問４・問５　15行の短い詩の中に「この景色は胸のすく思いだ」という作者の感慨が繰り返し詠み込まれている。この枠取りが、三連構成のこの詩の骨格である。